【授業科目】病理検査学Ⅱ　Laboratory PathologyⅡ

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小菅 優子	２年次 前　期	必 修	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／病理検査とは、疾患の確定診断を下すとともにその病変の広がりなどを確かめるために必要な形態学的検査である。疾患の診断および治療を目的に、生検、手術などで採取された臓器、組織、細胞などの検体を扱い、これらの検体を適切な処理をするとともに標本を作製するものである。本科目では、病理組織検査と細胞診検査の意義と流れについて学修するとともに、実際の病理組織検査（肉眼的観察、写真撮影、固定、脱灰、包埋、薄切、染色、凍結標本作成法など）および細胞診検査（検体処理、標本作成、染色など）について学修する。さらに、病理検査に関連する遺伝子・染色体検査技術についても修得し、病理学的検査の観点からの結果解析について教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／課題を提出した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。
実務経験に関する 授業内容	病理検査学の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な疾患の原因と成り立ちについて、経験を交えながら講義する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　病理組織検査法として、臓器の肉眼的観察、写真撮影、固定、脱灰、包埋、薄切、染色、免疫組織化学などの内容が理解できる。 ②　組織標本作成法について理解できる。 ③　分子病理組織学的検査法について理解できる。 ④　細胞診標本作製法について理解できる。
時間外学習に必要 な学修内容および 学習上の助言	第1～8回事前学修：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～8回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 ＊その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　特殊染色：内分泌細胞の染色 第 2 回　特殊染色：神経組織の染色 第 3 回　酵素組織化学染色 第 4 回　免疫組織化学染色１：標本作製法 第 5 回　免疫組織化学染色２：腫瘍マーカー、遺伝子の染色法 第 6 回　電子顕微鏡標本作製法 第 7 回　細胞診標本作成法１：検体処理、標本作成 第 8 回　細胞診標本作成法２：染色、細胞観察 全て小菅
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 講義ごとのレポート（講義内小テスト）30%、定期試験70%
教科書	『最新臨床検査学講座　病理学・病理検査学』 医歯薬出版株式会社 （1年後期「病理検査学Ⅰ」で使用したもの）
参考書等	『染色法のすべて』医歯薬出版株式会社
学生への メッセージ	本科目を理解するために、解剖組織学や病理学の基礎的な内容について十分復習しておくこと。 積極的に講義に取り組んでください。